

えぬびい! Oh!

2013 春
Vol.53

▶2～3P

タノシムチカラ大交流会
～地域づくりに新たな化学反応～

▶4～5P

東北を疾駆する土佐のNPO
自立する堅牢な地域づくりを支援する「土佐の森・救援隊」

▶6P

ファンドレイジングって知ってる?
～ファンドレイジング号でファン度アップ～

▶7P

7年間お世話になりました
高知市市民活動サポートセンターセンター長退職にあたって

タノシムチカラ大交流会

～地域づくりに新たな化学反応～

2013年1月19日(土)、高知市唐人町の料亭「濱長」で「タノシムチカラ大交流会」が開催された。主催は、「高知のまちづくりを考える会」と株式会社四万十ドラマ、一般社団法人「いなかパイプ」。

この交流会は、2001年に開催された「第14回地域づくり団体全国研修交流会高知大会(以降「大会」)のキーワード『タノシムチカラ』を12年を経て再び考察しようとするもので、高知県内だけでなく、遠くは青森県大間町や長崎県対馬市から総勢97名の有志が駆けつけた。

■コスプレトークから始まった

オープニングトークでは、司会の高知のまちづくりを考える会代表の畠中智子さんを始め、香南市赤岡町「絵金蔵」の横田恵蔵、南国市「AS奈路クラブ」の川村一成代表、青森県大間町「おおぞら組」島康子組長、仁淀川町出身の高知大学4年生の大野悠里さんが芸妓や舞妓の格好で登壇し、『タノシムチカラ』を提唱した香美市のデザイナー梅原真さんを囲んで、楽しいセッションを繰り広げた。



▶梅原さんを囲み芸妓や舞妓姿で登壇

■『タノシムチカラ』は地域づくりの原動力

オープニングトークから、今回のキーとなる登壇者の言葉を拾い出してみた。



【畠中智子さん】

(12年前を振り返り) 梅原さんの一言で『タノシムチカラ』というコンセプトが決まり、みんな大会を楽しもうと計画していた。大会は、他地域でそれまで開催されてきた参加者数の倍以上の800人になり、伝説の大会と言われている。交流は『タノシムチカラ』の集大成。



【横田恵さん】

大学時代の「絵金」研究から「絵金蔵」の蔵長になった開館当初、コンセプトを理解してもらえず苦戦したが、地域の文化を分かっただけでいい。丁寧に説明を重ね、多くの人に理解してもらえたようになった。赤岡町は合言葉が『タノシムチカラ』。



【梅原真さん】

(「絵金蔵」の設計プランに関わった事例や四万十新聞バッグの事例を上げ) 他人真似をせず、伝統を守りながら、小さな町は小さなことを楽しむべき。一見過酷なことでも、トラブルを解決し丁寧に寄り添うことが『タノシムチカラ』に通じる。『タノシムチカラ』はお互いが触発する弾け合う力を生み出す。



【島康子さん】

大間のまちづくり団体を2000年に立ちあげた。コンセプトは『面白がる』。



【川村一成さん】

「地域づくりは、義務だけでは継続できない。積極的に遊んで積極的に生きること。」

Think global act local (広い視野を持ち行動は足元から) を信条に活動をしている。



【大野悠里さん】

12年前の大会は知らないが、地域に大学生が来てくれることが楽しいと感じている。とさつ子タウンを通じて『タノシムチカラ』を知った。地域で暮らすことを楽しみながら自分のチカラで生きて行きたい。『タノシムチカラ』のバトンタッチが重要だ。

オープニングトークの後、参加者は高知ならではの料理や酒文化を楽しみながら、『タノシムチカラ』自慢を行い、夜が更けるまで交流を深めた。

▼地域自慢を行う県東部の参加者たち



受け継がれる『タノシムチカラ』

全国各地から来高された参加者の中から、登壇者を含め、幾人かの参加者に感想を聞いた。



《梅原真さん》 何でもプラス成長が良いという価値観に違和感がある。新しい豊かさの概念をつくっていくべき。数量だけではかるのはつまらない。成長に新しい目線やモノサシが必要。高知は県民所得が東京の半分以下の47番目だから新しい概念をつくりやすいのではないか。

今は12年前と時代が変わっている。多様性があり、こなれた感がある。「つるっ」として、整理されている。若者には、「地域はマイナスではなく個性が生かせるところだ」と言いたい。



《島康子さん》

芸妓姿になると聞いてやられたと思っただけ。正に『タノシムチカラ』。地域づくりは『タノシムチカラ』と両輪。理屈をこねる前にまず動け！高知の若い人が田舎に興味を持ってきてくれる。さきかけが高知だろう。若者が若者を呼んでいる。ぜひ見習いたい。



《松野由起子さん（浅草生まれ対馬で頑張る島デザイナー）》

今回の目的は、梅原さんに合うこと。地域の活性化に貢献する梅原さんに憧れ、今回それだけを目的に3日かけてやってた。



《遠藤正博さん（岡山県高梁市商工会議所総務課長、12年前も参加）》

いつ訪ねても土佐の皆さんの『タノシムチカラ』は半端じゃない。今回も圧倒された。最高に楽しませてくれた。



《福田真理さん（高知県立大学1年生）》

日本って思っていたより近い感じがした。他県の人との交流を通じて、いろいろな活動を知り周りのチカラを吸収したい。可能性が広がったので、後輩も巻き込んでやりたい。

参加者それぞれの、地域づくりにかける熱い思いや深い考えを伺い、全国に『タノシムチカラ』が広がり、着実に根付いていると感じた。そして、それが次世代に引き継がれるつがあると実感した時間であった。（森岡）



▲熱心に聞き入る参加者たち



* 地域づくり団体全国研修交流会

地域づくり団体全国協議会や地方公共団体等が主体となり、地域づくりに興味のある人々、行政関係者を対象に、自主的・主体的な地域づくりの推進に役立てようと全国レベルの研修及び相互の情報交換の場として、毎年各都道府県で持ち回り開催されている事業。

東北を疾駆する土佐のNPO

自立する堅牢な地域づくりを支援する「土佐の森・救援隊」

■東北支援のきっかけ

「緊急停止。ゴトンッ！」

車中の至る所で、携帯電話からの緊急地震速報が鳴りはじめる。筆者の携帯もけたたましく鳴る。昨年12月7日夕方、気仙沼市に入る直前の出来事だ。

続いて津波警報。久しくないのだろう、車中は緊張感に包まれる。結果、市街地（海岸沿）への影響はなく、車中にて2時間待機、事なきを得た。

オレたちZPO法人土佐の森・救援隊は、得意とする地域再生を根底におく森林整備・林業再生システムを謳う。土佐の森方式を以て、東北支援を継続している。

3. 11後一週間。「なにかできないか!」、「オレたちにできることはないか!」をただただ思い、次々と当団体スタッフが吉里吉里地区に入っていく。

■土佐の森流支援

オレたちができることはなんだ!

「自分たちで起こす自伐林業、できなければ寄り合い（地域コミュニティ）で助け合う林業と木使い」でできることがあるはずだ。

まず実践したことは、当団体スタッフと支援者・地域の方々がいっしょにチェーンソーで瓦礫を薪にして、薪の湯（写真1）を開設。その後、瓦礫の薪を30kg米袋に詰め込んで、復活の薪（写真2）として販売、売上を支援金とする。このとき、いっしょに活動

してくれた地元の若手たちが地域のために継続的になにかできないかを提唱。オレたちは市民活動団体吉里吉里国^{きりぎりくに}の法人化を支援、ここ吉里吉里地区で協働のもと本格的な東北支援がスタートする。

そして現在、吉里吉里地区に加え、宮城県気仙沼市、南三陸町及び登米市^{とめし}等で活動を続ける。

■目指すもの

オレたちの東北支援、一過性のボランティアではない。今はやりの言葉でいうと持続可能な社会づくりを目指すために、当団体の活動目的である「林業と木質バイオマス利用を地域に取り返し、地域経営による雇用創出のもと、本来の林業、本来の地域自然エネルギー利用促進」を再構築するということだ。



さらに加えると、被災地域、自治体、企業・団体、ZPO・市民活動団体等との雇用協働体制づくりのもと、持続可能な雇用・生業^{せうぎょう}として確立させる活動とすることである。そのために実践していることは、「自伐林

業者養成の研修」「木質バイオマス地域システムの構築及び本格運用支援」「木質バイオマス地域システムレベルアップのための薪ボイラー導入及び温泉地と被災地域を結ぶ薪循環システムの構築」「自伐林業ができる環境のコーディネート」「エコ（再生可能エネルギー）全量固定価格買取制度 対応収集システムづくり支援」などだ。

聞き慣れない言葉があるかもしれない。至極、至極簡単に言つと、林業という手段を以て自立する堅牢な地域づくりを支援することと理解していただきたい。

■余談ではあるが

純朴で、控えめで、口数少なく・・・なんて、我勝手に東北人を評していたが、思い込みも甚だしい。とてつもなくバイタリティがあり粘り強く、真摯で、かつ、自我が強い。テレビでよく「逆に元気をもらいました!」なんて殊勝なコメントを支援者から聞くが、まったくもってそのとおりである。石橋を叩きながら着実に、そしてガシガシと前進するのだ。いやはやなんとも調子者でなにも考えず突っ走る土佐人（ほんとに筆者のことを指している。）とは正反対である。

文責しのみや

写真1



写真1：薪の湯
写真2：復活の薪
写真3：岩手県大槌町吉里吉里地区現場
写真4：登米市現場（きこり塾を開催）
写真5：気仙沼市の現場
写真6：気仙沼市 第十八共徳丸
未だ撤去か保存（オブジェとして）か意見が分かれている。

写真3



写真4



写真5



えぬびい!
Oh!



写真6



写真2



ファンドレイジングって知ってる?

～ファンドレイジング号でファン度アップ～



▲ファンドレイジング号

「ファンドとはファン度」



▲ファンドレイジング号出発式で挨拶をする東森歩さん（「ファンドレイジング・ジャパン in こうち」実行委員長）



「想像以上のでき。FRを知ってもらい興味をもってもらえたら嬉しい」

「いま、なぜFRが注目されているのか」電車の車体や車内が分かりやすい噴出しや四コマ漫画でデザインされ、ファンドレイジング号にはFRの情報が満載。

村岡マサヒロさんの漫画を中越令子さんがデザインしたファンドレイジング号には、電車に乗って町並みを眺めながら、手持無沙汰な時などに読んでFRの仕組みを知っていただけのように、FRの情報が分かりやすく紹介されていました。

（のむら）



▲高知駅でのファンドレイジング号出発式には、かわいい丑之助学園の鼓笛隊も！

▲ファンドレイジング号車内での中越令子さん（デザイナー）



「ファンドレイジング号」町を走る

市民団体が活動資金を集める仕組み、市民が市民に思いを託す社会貢献の新しいかたち「ファンドレイジング（以下FR）」を、知っていますか？「寄付つき商品（※）」もそのひとつ。

FRを広く一般の方に知っていただきたいと、土佐電鉄の路面電車に漫画をデザインしラッピングした「ファンドレイジング号」が1月10日（木）から3月10日（日）まで伊野〜ごめん間を運行しました。

「初めての経験だった。漫画電車が高知の町になじんでほしい」



▲ファンドレイジング号出発式での村岡マサヒロさん（漫画家）

（※）寄付つき商品

企業がCSRの一環として行う商品。売り上げの一部を支援したい市民活動に寄付する取り組み。

3月2日（土）に開催した「ファンドレイジング・ジャパン in こうち」の昼食に販売した「とさっ子駅弁」は、1個につき50円が「こどもが運営するまち“とさっ子タウン”」に寄付される。

7年間お世話になりました

高知市市民活動サポートセンター
センター長退職にあたって

2006年の7月1日にセンター長に就任し、7年目となる今年の3月末に退職することになりました。在職中は多くの皆さまのご協力を得て、当センターの運営や多様な事業に取り組むことができましたこと、紙面をお借りしてお礼を申し上げます。

毎日様々な市民団体の皆さまが、サポートセンター会議室で打ち合わせをしたり、取り組みを知らせるためのチラシや資料等を印刷されている様子を見させていただく中から、市民のチカラで社会を変えていこうという想いを持つ方々が、たくさん居るんだということを実感することができました。

サポートセンター在職中の7年間に、たくさん取り組みを行ってきましたが、特に印象に残るいくつかをふり返ってみたいと思います。

①「湯くモアプロジェクト」



高知市旭地区で銭湯が廃業し、高齢者の皆さんが困っているということが、就任前から気になっていました。そこで保健所の担当の方や、銭湯の経営者の皆さん、また、銭湯好

きの有志らの協力を得て、「湯くモア新聞」を年に1〜2回発行。地域のコミュニティの拠点にもなっている銭湯の魅力に関心を持ってもらい、少しでも利用促進につながればという思いで取り組みを進めてきました。

② こどもが運営するまち「とさつ子タウン」



▲上段:参加した子どもたち
下段:実行委員会メンバー

「こどもが参画できる事業を」「サポートセンターを若い世代にも利用してほしい」といったニーズに対応しようと始めた事業です。

年度に1回2日間、小4〜中3のこどもたち約300名が参加し、約40種類の職業をその道の専門家の指導のもとに体験し、地域通貨で給料をもらって税金を納め、市長や議員選挙等も行いなど、こどもたち自らがまちの運営を行う取り組みです。2009年度から始まり、実行委員会メンバーの大学生や高校生、多くの若い世代がサポートセンターに集うようになりました。そして、多くの企業等の協力を得られる事業になりました。

③ 寄付ぎふとプロジェクト

災害発生時だけでなく、日頃から寄付をしてみようと思えるようなしくみをいくつか考案し動き始めて1年半。まだまだ試行錯誤の段階ですが、今後、こうしたしくみが定着し、寄付が特別なことではなくなるような社会になればいいなと願っています。

畠中洋行



▲お香典をNPOに寄付をするしくみ



▲寄付つき商品のしくみ



▲寄付つきメニューのしくみ

最近全国でご当地ゆるキャラが注目されていますね！
というわけで、ここで突然ですが…

☆高知のゆるキャラ名前当てクイズ☆



はじまりはじまり～

あなたは何人わかりますか？

※キャラクター説明の中にヒントがあります※

- ① 四万十町「馬之助神社」に祭られている「馬之助」から生まれた「海洋堂ホビー館四万十」の公式キャラクター。緑とオレンジの2人組です。両方わかるかな？



(c) 2012 YOSHIKAZU・TAKAI / KAIYODO HOBBY MUSEUM SHIMANTO

- ② 香南市観光協会の、猫をモチーフにしたマスコットキャラクター。セーラー服を着ているのは、香南市の水先案内人だから。



- ③ 幼い時から節納屋（宗田節の加工場）で修行を積み、独立後も宗田節の旨味を、身を削りながら広めています。土佐清水市公認の宗田節 PR キャラクター。



- ④ 「よさこい高知国体」の開催に合わせて、平成9年に公募で生まれた高知のイメージキャラクター。今年の10月26～29日に開催される「ねんりんピックよさこい高知2013」バージョンなので、年輪（ねんりん）切り株に座っているんですね。



- ⑤ 高知県ボランティア・NPO センターのマスコットキャラクター。名前は、こうちボランティア・NPO 情報システム「ピッピネット」の語源でもあります。今年は、11月23・24日に開催される「第22回全国ボランティアフェスティバル高知」をPRしています。



#編集スタッフの

つぶやき



@たまき

日にち薬という言葉で、このところ何十回かけてもらっていることか。ダメーじ続きの心身に、その薬は一番効きます。効果を体験したことのある人にかけてもらう「日にち薬よ」という言葉も、とりわけいい薬のような気がします。



@じゅんさん

定年後近くに小さな貸農園を借り家庭菜園を楽しんでいる。毎日寒い日が続く。今年も畑にジャガイモの種を植え付けた。昨年は2月末に植えたので今年は約1ヵ月ほど早い。毎朝マイナスの気温が続くのでこの寒さが心配だが収穫が楽しみです。



@ありた 高知大4年

気がつくとはや4年が過ぎ、大学と広報部会から卒業のときとなりました。この4年間は、時間が経つのが早く、社会に出るともっと早いのかとドキドキです。貴重な時間をより大切にしていきたいと思ひます。ありがとうございます！！



@あゆうら

うちの愛犬（パピヨン）もシニアの仲間入りをして3年目。最近では暗くなると目が見えないようで散歩中に壁や電柱に頭をゴツン！そのたびに「キャンッ」と。あなたも私もお年頃なんだから気をつけないとねえ～励まし合いながらの日々です。

© Silhouette Design 1

発行 高知市市民活動サポートセンター
企画編集 認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階
月～金/10:00～21:00 土/10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : npokochi@siminkaigi.com

WEB : http://www.kochi-saposen.net/

この冊子は再生紙を使用しています



@あおき

大好きな路地文旦の季節到来。5年前高知に越してきた当時は、文旦のおしりに親指を入れるも外皮のフタの厚さに苦戦、文旦は飾り物と化していたけど、今では、皮を器に果肉の盛り合わせを手際良く作れる。ようやく、高知の人にたれたかな。



@おおの

母が店長になりました。棚田の真ん中、こじんまりとした食堂のような雰囲気のでんのおいしいモノがたっくさん。営業時間は気分次第。笑。地域の人が集まる、ほっと落ち着く場所が出来ました（-^□^-）



@ぼんた

高知に来て3年目。ここに来なければ知らないことがたくさん出来てしまっていたらうなあ…と最近よく思います。ネットで情報が手に入る便利な世の中ですが、本物の「情報」というのはやはり自ら獲得しなければ、と心に強く思う今日このごろです。

ㄱㄴㄹㅇㅁㅂㄷ ㄱ>ㅅㅇㅈ>ㅂ
ㅁㄴㅇㄹㅇㅂㄷㅁㅂ ㄱㄴㅇㄴㅇㅂ

(ㄱㅇㄴㅇㄹㅇㅂㄷㅁㅂㅇㅂㄷ) ㅇㄴㅇㄴㅇㅂㄷㅁㅂ ①:ㅇㅂ

表紙・編集デザイン 国際デザイン・ビューティカレッジ1年 佐々木杏菜 吉岡優美
梶西紋史

タイトルロゴデザイン 国際デザイン・ビューティカレッジ卒業生 西森美和 前野さくら